

令和５年度 第７回 流山市福祉施策審議会会議録

- 1 日時 令和６年１月３０日（火）
午後２時から４時３０分まで
- 2 場所 流山市役所 ４階委員会室
- 3 出席委員
鎌田会長 中職務代理者 石幡委員 小野寺委員 石渡委員 平井委員
小林委員 南委員 山本委員 萩原委員 福山委員 久富委員 中野委員
- 4 欠席委員
肥田委員 中久木委員 鈴木委員 小熊委員 東ヶ崎委員
- 5 出席職員
伊原健康福祉部長 宮澤健康福祉部次長兼障害者支援課長
池田社会福祉課長 木村高齢者支援課長 平尾児童発達支援センター所長
渡邊健康増進課長
防災危機管理課
中野課長補佐
介護支援課
竹之内課長補佐
事務局（社会福祉課健康福祉政策室）
田村健康福祉政策室長 張替主任主査 加藤主査保健師
- 6 傍聴者
市民 ３名
その他の参加者 手話通訳者２名

（司会）

本日はお忙しい中、令和５年度第７回流山市福祉施策審議会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

議事の進行につきましては、流山市附属機関に関する条例第５条第１項の規定に基づき、会長が会議の議長になることになっております。鎌田会長お願いいたします。

(鎌田会長)

前回12月に審議が行われました際には、東日本大災害の記憶も薄れがちでしたが、元日に能登地方に大きな地震が起こってしまいました。流山市の姉妹都市である石川県能登町も大きな被害を受けたので、他人事とは思えないと感じた方もいらっしゃると思います。被災者の中でも、高齢者や障害を持つ方々は、地震の困難さと闘いながら、さらに寒さやトイレ、水、食料の不足、感染や地震の恐怖などと闘い、地震から1ヶ月近くたった今も困難な毎日を過ごしているようです。

避難行動要支援者の避難支援計画の策定にあたっては、緊急時の避難のみならず、その先の支援を見据えた計画が必要ではないかと、毎日の報道を見て感じています。

今回の計画見直しの目的は、流山市地域防災計画との整合性を図り、国が策定した避難行動要支援者の避難行動支援に関する取り組み指針に基づいた改定を行うことと、市が以前から、災害に備えて平時の活動として取り組んできた、地域支えあい活動を反映した地域の助け合いを進めることを主な目的としています。真に役立つ避難計画に結びつくような答申の作成を目指して、本日も委員の皆様を活発にご議論いただきたいと思います。

会議に入る前に、委員の皆様には報告いたします。本日の出席委員は13名です。委員の半数以上の出席がありますので、附属機関に関する条例第5条第2項の規定に基づきまして、会議は成立していることを御報告します。

なお、市民参加条例等の規定により、審議会は公開となっております。

本日は3名の方から、本審議会を傍聴したい旨の申し出がありましたので、会議の傍聴についてご了承願います。

《傍聴者入室》

(鎌田会長)

それでは、まず事務局から本日の議題について説明願います。

(司会)

本日は「流山市避難行動要支援者避難支援計画」の改定についての1件です。また、議事録作成のため、録音させて頂くことをご了解願います。

(鎌田会長)

「流山市避難行動要支援者避難支援計画」の改定については、次回3月14日に開催する審議会での答申を目途に議事を進めていきたいと思っています。

そのため、本日の審議会で御意見・御提案が集約できるよう御協力をお願い致します。それでは、執行部より説明をお願いします。

議題 1

（池田社会福祉課長）

事前にご意見・ご質問をいただいたところ、前回の会議後に能登半島地震もあり、特に福祉避難所の運営に関するご意見が多かったことから、理解の共有を深めるために、ご意見のあったことについてまず説明します。

しかし、この福祉施策審議会は、避難行動要支援者避難支援計画の見直しを検討するもので、避難所に避難するまでの支援計画が本体となっています。また避難所や福祉避難所の運営等については、地域防災計画の方で定めていくこととなりますので、ご理解いただければと思います。

【説明】

（田村健康福祉政策室長）

- ・（１－４）「福祉避難所について」に基づき説明
- ・「流山市避難行動要支援者避難支援計画」の改定に関する事前質疑

（鎌田会長）

執行部より福祉避難所と事前質疑について説明がありました。計画の審議に入る前に、この内容についておおむね１５時まで時間を取ります。

ただ今の説明について、ご意見やご質問はありますか。

（久富委員）

障害者等の場合には地域支え合い活動の名簿登録が同意方式となる理由は理解できた。一方で避難の際に避難所での生活を想定した連携の確保を個別避難計画に落とし込む必要があることがわかりました。

家族に障害のある者がいるが、家族がいるので避難自体はできるため、支え合い活動に登録しないという判断を今はしていますが、登録することで避難所でのその後の避難生活に必要な情報があれば、そこもわかりやすく伝わるように案内する必要があると思います。

（田村室長）

ご意見ありがとうございます。個別避難計画の取組みを進めるなかで、併せて地域支え合い名簿にも登録していただけるよう働きかけをしていきたいと思

います。

（中野委員）

事前質問の中で、能登地震の関係を含めて、災害関連死を減少させるために2次避難所の構築が必要と意見しました。金沢市が多く受け入れることができたが、能登では施設から移動しようにも出られなかったと報道されていますが、8割金沢市、2割県外で受け入れしているようです。流山市での受け入れ体制があったか伺いたい。

（中野防災危機管理課長補佐）

今回の能登半島地震では、国から市営住宅等への被災者の受け入れの照会がきていて、市営住宅の空き住戸の受け入れ可能と回答しました。距離的な問題か今のところ受け入れ実績はありません。

（中野委員）

東日本大震災の際には受け入れしていたと記憶しています。困ったときに無事なところで受け入れを、流山市は能登町と姉妹都市なので、その施設に積極的に手を差し伸べることができたらよかったと思います。

災害関連死を防ぐには、遠方でも積極的に移動できるような、あまり希望がないのかもしれないが、もっと動けるように平時の交流などの必要性を感じました。

（鎌田会長）

流山市以外で大きな災害が起こったときに、流山市は被災された方の受け入れをする用意があるのかということと思いますが、いかがですか。

（池田課長）

受け入れ体制は市営住宅の空き住戸を活用することになると思います。

（中野委員）

将来的に逆の立場になることもあるかと思う。我々が頼らなければいけないことも考えて、平常時からの交流を考えてほしい。

（久富委員）

避難所から福祉避難所への移動手段について、基本的には家族等の移送でよいと思うが、単身者など支援者がいない場合も想定され、移送も自助というの

は厳しいと思います。福祉避難所への移動は個別避難計画ではないかと思いますが、そこも想定して個別避難計画を立てることを検討してはどうでしょうか。

（田村室長）

個別避難計画は最初の避難所まで家族や地域の支援を得て避難する計画と想定しています。最初の避難所から福祉避難所に行くにあたって、可能であれば受け入れ施設にお願いする、ボランティア等の協力を得ることも想定され、自助以外の手段が一切ないということではないと思います。

（久富委員）

その時に行くことができる施設が近いとは限らず、車が使える状態であるかもわからないので、基本的に自助でも、どうしても困った場合には市として移動手段を探すなど、相談に乗る体制があるとよいと思います。

（田村室長）

計画に「自力での移動が不可能な場合には検討」という内容の記載をしたいと思います。

（南委員）

水害や台風は備えができることがあっても、地震は瞬時のことなので組織だって行動できません。そういった時に行政が指示して民間の避難支援などを招集するなどの準備も必要だと思います。

千葉県介護福祉士会では、市立体育館から次の避難所へ行く方たちをサポートするということで、石川県小松市に支援に入っています。そこで一番足りていないのはオムツ交換や清拭です。いろんな方が支援に入っていますが、顔なじみの保健師や民生委員の顔を見てホッとする人もいたと聞いています。

（鎌田会長）

今のお話は、地震等の事前に備えられない、組織的に避難ができない場合に備えて、民間の避難者の組織、そういうものを作る支援を市がしたらどうか、ということでしょうか。

（田村室長）

急な災害時には行政もすぐになかなか動けないので、そうしたときに地域で頼りになるのが自治会等を主体とした自主防災組織です。その取り組みを支援

していきます。

（福山委員）

昨年流山小学校の防災訓練に参加し、障害者の方の避難誘導を見学しました。

聴覚障害の方が団体で来ていて、こんなに多いのかと驚きました。皆さんは黄色のハンカチを身に着けていました。知的障害など、目に見えない、わからない障害をお持ちの方は、団体で居る時にはわかっても、避難の時には個々にいるので困るのではないかと思います。周囲がわかるようにこれを参考に事前に黄色いハンカチを持ってもらってはどうかでしょうか。

また、避難所の食料のことで、その日の参加賞でビスケットをもらいました。今までは乾パンで食べづらかったが、ビスケットは味も薄くて食べやすくこれは良いと思いましたが、誰でも食べられるような水分のあるお粥やゼリー状のものもあると良いと思いました。

（鎌田会長）

食べやすいような避難食が必要ではないか、と、見えない障害もわかるようにしたらどうかというご意見です。皆様いかがですか。

（小野寺委員）

黄色いバンダナは聴覚障害者であることや、手話ができる人などが、目につきやすい方法として、個々に避難していてもわかりやすく見つけやすいように、みんなが繋がることができるように、色々と工夫して作ったものです。

わかりやすいというご意見でしたので、嬉しく思いました。

今回の能登の地震では、まず一人一人が一般の避難所に集まり、それぞれに福祉避難所に集まることができたというニュースがありましたが、障害を持っている人には、一般の人と同じように避難することは難しく、障害に合わせた避難の仕方も考えなければいけないと思っています。

（鎌田会長）

先ほど福山委員のお話の「黄色いハンカチ」が、工夫された「黄色いバンダナ」ということでしょうか。当事者の方々が工夫してそのバンダナをつけたということですね。

障害者の方が、わかるように自主的に身に着けている、他にも見えない障害はありますが、そういうことを見つけるとか、或いは一般の方がそれを見て、あの方にはこういう障害があるかなと、わかるように工夫されたらどうかという趣旨のご意見だと思いますが、執行部の方はどうお考えですか。

（伊原健康福祉部長）

貴重なご意見ありがとうございます。本当に大事なことです。今、聴覚障害の方の取り組みを一つの事例としてご紹介いただきました。

いろいろな障害をお持ちの方が、災害時にこういうことが困るという冊子を作った取り組みがあります。これを皆さまと共有したい。それぞれの障害種別の方がどのように困っていて、どうサポートしてもらおうと助かるか、これを全市的に広めていく必要があると思います。大切なご提言をありがとうございます。

（山本委員）

協定を結んでいる 14 か所の福祉避難所の収容人数は想定しているのでしょうか。

（田村室長）

部屋を区切って確保してあるわけではないため、それぞれの施設の定員に合わせた利用者がいることから、実際にはその時の施設の状況によると思います。

（鎌田会長）

実際にはほぼ満床で空きはないのではないのでしょうか。

（中委員）

それぞれの施設で規模が違うところです。施設の地域交流スペースの広さも異なります。

入居者は個室が多いですが、災害時には個室を 2 人で使う、共用スペースに一時待機していただく等、行政と連絡を取りながらやるようになると思います。ただ、施設としては満床の状態なので、各家族に 1 部屋確保するなどは難しい。

（山本委員）

果たしてそれで本当に機能できるか疑問です。

（平井委員）

場所的には雑魚寝になると思うが、人的な支援の担い手がいないと場所だけ提供しても、ということがある。普段の利用者への支援で精いっぱいではないのでしょうか。

（中委員）

能登の状況をみると、施設職員も被災者で職員不足で入居者対応も十分でない状況です。今、施設ではBCP（業務継続計画）を立てていますが、それを最大限生かし、施設の入居者を守りつつ受け入れをどうするかということになるので、想像できない部分も多いです。ここで「こうします」というのは難しいところです。

（南委員）

支援の担い手に関連して、被災地で派遣従事している看護職員等の状況からお話しします。派遣元に了解を取るとしても、コロナウイルス感染症やインフルエンザなどの感染症の問題があり、課題となっているそうです。

（伊原部長）

14か所の福祉避難所は、それぞれ入居者がいる中で更に有事の受け入れに手を挙げていただいているので、厳しいのは当然のことと思います。ある程度人手を集めることができるような、外部からの受援の手立てを市として考えていかなければならないと考えています。

（宮澤健康福祉部次長・障害者支援課長）

障害のある方について、災害時の避難所生活に不安があるということは、認識しています。

対応として、「コミュニケーションベスト」という、ヘルプマークのストラップ柄のビブスをつけてもらい、「聴覚障害」「妊娠中」など、必要なことを記載いただき、支援が必要であるというサインにしています。

希望する当事者には窓口で配布していますし、避難所の必備品に入れていきます。

障害といっても色々な障害があります。追加資料として配布します冊子に、障害種別ごとに、どういったことに気を付ける等記載しています。

自治会等を通じて配布しているがいきわたっていない部分もあるので、あらゆる機会を通じて、周囲の皆さんに理解していただけるよう広めていきたい。

（石渡委員）

事前質問への回答の7-1、8-1自治会との協定締結について、新任自治会長説明会、ご協力いただけるよう丁寧に説明して…とあるが、もう少し強くはたらきかけることはできないのでしょうか。

（田村室長）

お配りした資料の中ではこの表現ですが、説明会等では強く訴えかけていきます。

（福山委員）

前回の計画について、6ページに自助・共助・公助とあるが、一番の盲点は共助で、平常時にできないことは災害時にもできないと思います。私は隣の電話番号も家族構成も知りません。

能登でも家族の安否が確認できなかった、という報道があり、地方でも人のつながりが希薄になっていて、いくら良いことを謳っていてもご近所さんでもそうなのかとショックでした。

（田村室長）

共助が弱くなっていて地域のつながりが薄れていることは、その通りで、避難行動を支援してくれる人が見つからないケースはこれから多く出てくると思う。そうは言っても特効薬はないので、日ごろからの挨拶などから地道に取り組んで関係を築いていくほかないと思います。

（鎌田会長）

では、時間の関係から、ここでいったん議論を区切ります。

続いて「流山市避難行動要支援者避難支援計画」の改定について、執行部より説明をお願いします。

【説明】

（田村健康福祉政策室長）

- ・（１－１）流山市避難行動要支援者避難支援計画（案）
- ・（１－２）流山市避難行動要支援者個別避難計画（参考・様式（案））
- ・（１－３）流山市避難行動要支援者避難支援計画 改定のポイント
に基づき説明

（鎌田会長）

私たちが答申を出すのは、この計画の改定をどのようにしたらよいかについて、まとめたものです。

前回の審議会で配布の厚い資料が改定前の計画、本日配布した資料が今回の見直しの内容で、第３章に個別避難計画が入ることが大きな変更点です。

この計画をどういうものにしたらよいかご議論いただきたい。

それでは、只今の説明について、ご意見やご質問はありますか。

（南委員）

今の説明の中で、個人情報の取扱い 7 ページ 7 行目「必要以上に複写しない」とありますが、複製部数と保管責任者、誰に何部配布したかということを明記する必要があると思います。

（田村室長）

個別避難計画の情報の提供の仕方について、まだ決まっていないので少し幅を持たせた書き方としているが、個別避難計画は原則として複製しません。

しかし、例えば自治会に 1 部渡したとして、地区の班長も欲しいという場合など最低限必要な複製が発生した場合を想定して「必要以上に」としています。実際の管理の仕方についてはこれから検討が必要になりますが、地域支え合い名簿も複写しないものとしていますので、名簿と同等又は更に厳格な管理が必要と認識しています。

（山本委員）

個別避難計画の紙は郵送で対象者に送られ、それに記入して返送するようなやりかたでしょうか。

（田村室長）

個別避難計画の様式と作成の手引き等をあわせて郵送し、複写用紙で作成、1 枚を本人保管、控えを市に返送していただき、ゆくゆくは地域と共有するという運用を考えています。

（山本委員）

身寄りのない方、相談する人がいない方はどのように作成するのでしょうか。

（田村室長）

親族がいれば親族、民生委員や自治会の方などつながりのある方をお願いすることが考えられます。それもない方については検討が必要ですが、災害時に市が助けに行くのは困難なので、自治会とのつながり等を支援して避難支援者を探すことも必要になってくると思っています。

(山本委員)

そういう人こそ支援が必要なのではないでしょうか。

(田村室長)

おっしゃる通りではあるが、まずはできる方から取り組んでいただき、できない方を見つけていく。まずは 1 人でも多くの方の計画を作っていくという手順で進めたいと思っています。

(鎌田会長)

まずは書類を送って、返ってこない人には個別に対応を検討するということですね。

(小林委員)

関係者に共有するには紙ベース、支援者に SNS 等スマホを使って配布することは考えていますでしょうか。

(田村室長)

受け手側も電子媒体の扱いに慣れていない人もいると思うので、情報共有の方法については検討していきたい。

(鎌田会長)

小林委員のご意見は対象者にも電子媒体でということですか。

(小林委員)

対象者は電子媒体で送られてもわからないだろうと思いますが、役所が関係者と共有するときはどうでしょうか。

(田村室長)

自治会等には所管する範囲内で提供することになりますが、紙で提供するか電子媒体になるかは今後検討です。

(久富委員)

個別避難計画の様式を見て、避難支援者が空欄になる人が返送しないことが想定されます。

一人暮らしで近所づきあいもあまりない人、自治会にお願いするとしても役員の想定はあると思うが、役員は毎年変わるので名前を書いていいかなどとい

うところで躓いて返送しない人がいると思いますので、空欄でも返送してもらい、空欄は後で相談して埋めるとした方が、返送率が高くなるのではないのでしょうか。

（田村室長）

空欄でもよいとすると多くの人が空欄としたいと思います。避難支援者がこの個別避難計画の最も重要な部分ですので、極力、自力で避難支援者等をあたっていただきたい。

別居の親族等でもよいが、それでも空欄で出してきた人に対してフォローは必要だと考えています。

（鎌田会長）

遠方の親族では直接の避難の支援はできないのではないのでしょうか。

（田村室長）

避難支援は車に乗せて避難所に連れていくことだけが避難支援ではなく、例えば「高齢者等避難」のタイミングで避難を促す声掛けをすることも避難支援にあたると幅広くとらえています。

（鎌田会長）

避難支援者のできることに、安否確認、避難誘導、情報伝達とあるが、地震の際には電話がつながりにくく、避難誘導も遠隔地では難しいのではないのでしょうか。

（伊原部長）

この計画は紙を書けば完成するものではなく、実際に実効力があって無事に避難所まで行けないとならないものです。

最終的には近所でお願いできる人を一緒に考えるのも必要で、避難支援者になっていただける人の把握・お願いなども伴う作業と認識しています。

（鎌田会長）

見つけられない人については、一緒に探すという対応もしていただけるということで、よろしいのでしょうか。

（久富委員）

基本的には記載していただくのが大前提というのはわかりますが、そういう

人たちを排除しないように、見つからない場合には手助けすることをお願いしたい。

（鎌田会長）

遠隔地の方は、避難ができた後には連絡先となるけれども、緊急の際の計画ということなので、お近くで援助してくださる方を見つけていただくお手伝いを行政にさせていただく事が大事かと思います。

（南委員）

生命を守ることも大切ですが、個人情報は大丈夫なのかという心配もあります。個人情報を「適切に管理」とありますが、管理者を定めるなど、具体的な方法を規定する必要があるのではないのでしょうか。

「適切に管理する」という書き方は絶対にあってはいけないと思います。

（鎌田会長）

個別避難計画の情報管理ということですね。もう少ししっかり管理方法を書いた方がよいのではないかというご意見ですがいかがでしょうか。

（池田課長）

責任の所在等を記載するよう検討したいと思います。紙か電子媒体か、今はまだ電子媒体のセキュリティの問題もありますが、そこがクリアできるものが見つかれば切り替えることも考えたいと思います。

（石幡委員）

紙・名簿の管理について、支え合い名簿では、管理者やコピーの部数や管理者等は市に報告していて、役員が終わったときには市に返却するようになっています。現時点では紙がベターなのではないのでしょうか。

（鎌田会長）

現実的に、紙の方が情報管理をできるのではないかということですね。

（中野委員）

10、11ページの警戒レベルの変更について、ここ数年の台風の際にレベル3が出たかと思うが、その時に避難した人はどのくらいいて、その中に要支援者はどのくらいいたのでしょうか。また、現状の要支援者情報について、実際に利用したかわかりますか。

（宮澤次長）

令和元年10月の台風の際、赤城福社会館の避難所運営を担当しましたが、名簿の活用はしておらず、また来た方も自力で来られる方だけでした。

その時はとりわけ避難してくる方が多く、赤城福社会館だけで50人くらいいたと記憶しています。高齢の方もいたが、特に支援が必要な方はいませんでした。

（池田課長）

補足です。その時避難所運営本部の担当課でした。

当日はキックマンアリーナを開設したことで、支援を必要としない方を含め、300人くらいの避難者がありました。

女性だけの部屋を作り、来た人は名簿で管理し、1時間ごとに人数把握していました。夜3時頃に江戸川の水位が上がってきたため、急遽ほかの避難所も開設しました。その時には、支え合い名簿は活用していませんでした。

（鎌田会長）

中野委員のご質問は、その災害のときにご自分で避難できないような方に、支え合い名簿に基づいた支援があったかということでしょうか。

（中野委員）

おおむねそうですが、実際の時にどこでうまくいかないところがあるのか。そこを考えて直せるものは直していったらどうでしょうか。

集まった人の名簿は作っていても、その人が要支援者かというところに結び付いていないことが分かりましたので、機会を捉えてうまくいっているか検証してはどうでしょうか。

（鎌田会長）

今のご意見は、平時には個人情報保護は大事だが、実際に災害が起こった時には個別避難計画をどのように活用できるかシミュレーションが必要ではないかということかと思います。

（平井委員）

民生委員は担当区域の方の救急情報カードを預かることがあります。私の場合50人分くらい持っていて、支え合い名簿と付け合せると、かなり助かります。

改定案で、個別避難計画作成対象者について、要介護度2以下の高齢者のみ

世帯は入らないとなっておりますが、要介護３以上の人はケアマネ等支援してくれる人がついていることが多いです。

民生委員としては一人暮らし高齢者全体を見ていますが、いざ逃げる時には、こういう人たちこそ避難の判断に困ると対象だと感じています。対象に加えないのでしょうか。

（田村室長）

基準の上では通知対象者ではないですが、支援が必要で名簿登載のお申し出があった方については対象として、その方にも個別避難計画を作っていただきたいと思っています。

（平井委員）

作成対象になることはどのように伝えますか。民生委員が言うのでしょうか。

（田村室長）

計画が必要な方は一人ひとりの事情により、客観的な基準は設けられないので、お一人暮らしで不安だという方は個別避難計画を作っていただき、周知方法については民生委員にお願いしたり、広報等でも案内していきます。

（平井委員）

民生委員の責任が重いのでは。もう少し検討していただきたいと思います。

（鎌田会長）

個別避難計画の周知の方法は、もう少し検討していただくということで。

（福山委員）

私は２０１９年に転居してきて１か月で、高齢者等避難が発令される災害に遭いました。避難所の場所がわからず、明るいうちにキッコーマンアリーナに避難したとこと、若い人が大勢来ていて、避難をするのは早めがいいと感じました。

避難所ではペットも隔離されていて、自分にとって避難訓練の勉強になりました。

（鎌田会長）

避難所が健康な人で早く埋まってしまう状況もあるようなので、個別に支援を必要とするような方については、より早く避難されるよう市からも呼びかけ

をしていただきたいと思います。

（小野寺委員）

個別避難計画は、障害者に対して大切だと思っています。障害といってもそれぞれ異なるため、個別避難計画を作るにあたって、それぞれの団体に、その人に合った書き方等を説明して欲しいです。

以前救急情報カードをもらった時、自分は若くて関係ないと思っていましたが、デフ協会も高齢者が増えてきていて、避難について知識が必要なので、当事者がきちんと書いて提出できるようになってほしいと思っています。

福祉避難所について、老人ホームが福祉避難所になるということだが、受け入れできる人数はわからないとの説明でしたが、実際に災害が起きた時に対応が遅れると思います。

私も当事者ですが、森の倶楽部で手話カフェをやっていて良く知っている場所なので、そこを避難所にしていただくなど、当事者の要望を聞いて、把握して欲しいと思っています。

（鎌田会長）

個別避難計画の作成にあたって、それぞれの障害者団体へ説明に行き下さるか、ということでしたが。

（田村室長）

団体への説明についてはご相談させていただきたいと思います。

（萩原委員）

救急情報カードを書いたことがあります。災害時に向けて地域とのつながりが大事ということは確かです。

能登の地震があったので、現地から学んで、情報を得て、流山としてどうしたらいいか考えてもらえたらいいと思います。

この個別避難計画がスムーズに皆さんに渡って、早く実施できるようになれば、何かあったとき助かるのではないかと思います。

考えるよりやってみて、やってダメなところは直していくのではないと進まないような気がします。皆さんの意見を聞きながら、流山として具体的に取り組んでいただけたらと思います。

（伊原部長）

私たちは一つ一つの災害から学び、我が事として、本市で起きた時にどうし

ていくかということの本気で考えなければなりません。

東日本大震災や直近の能登半島地震から色々な情報をキャッチして、本市で起こった時に、災害死・災害関連死を防がなければならない。

このことについては、計画はもちろんだが、同じ地続きとして避難のことも考えていかなければ。頂いたご意見のとおりで、しっかりやっていきたい。

（鎌田会長）

これから答申を作っていくことになりますが、予定時間を超過していることから、本日の審議は以上でよろしいでしょうか。

本計画については、これまでの議論で概ね意見の集約が図れたものと考えます。事務局は本日の意見・提案に沿って、計画案の修正をお願いします。

次回の審議会では答申文書の議論を行いたいと思います。私と中職務代理で、事務局と調整のうえ答申案として作成し、委員の皆様にお示ししたい。

その他に何かありますか。特になければ事務局から連絡事項はありますか。

（司会）

次回、第8回の福祉施策審議会の開催日時と場所の予定は次のとおりです。令和6年3月14日（火）午後2時から、会場はケアセンター4階研修室です。配付した資料については、次回もお持ち頂きますようお願いいたします。

（鎌田会長）

本日の議事は、以上をもちまして終了いたします。御協力ありがとうございました。

（司会）

鎌田会長には、議事進行ありがとうございました。

以上をもちまして、令和5年度第7回流山市福祉施策審議会を終了します。ありがとうございました。